

地域における生物多様性の保全・再生に資する取組を支援します。

1. 事業目的

- ① 地域の自然特性に応じた、地域における生物多様性の保全・再生に資する活動の支援により、国土全体の生物多様性の保全・再生を推進。
- ② 地域による自立的・効果的な取組の継続を促進、早期対策により被害等の拡大を抑制し将来の取組コストも低減。

2. 事業内容

・「生物多様性地域連携促進法（平成23年施行）」「生物多様性国家戦略2012-2020（平成24年閣議決定）」において、地方公共団体や事業者、民間団体、地域住民等の多様な主体の連携・協働による活動の促進が必要とされている。

・法に基づく指定種や保護地域に係る取組、法定計画の策定とそれに基づく取組等、国としても促進すべき下記事業を地域が行う場合に、短期的に支援。

1.地域における生物多様性の保全再生に資する活動（交付率1/2、原則2年）

- ①特定外来生物対策
- ②重要地域の保全・再生
- ③広域連携生態系ネットワーク構築
- ④地域・民間の連携促進活動

2.動植物園等による生息域外保全（定額:上限200万円、原則3年）

3.国内希少種の保全活動（定額:上限250万円又は上限150万円、原則3年）

4.地域における特定外来生物の早期防除計画策定（定額:上限250万円、原則1年）

3. 事業スキーム

- 事業形態 交付金（間接交付による。交付率は1/2又は定額）
- 交付対象 非営利団体、地方公共団体一般、民間事業者 等
- 実施期間 平成20年度～

4. 活用事例

事例1 能勢の里山活力創造推進事業（H30～R1） （能勢の里山活力創造推進協議会）

生物多様性地域連携促進法に基づく「地域連携保全活動計画」を策定。また同計画に基づき、観光や農林業、住民等との連携による里山資源の保全と活用を推進。

事例2 明石・神戸アカミミガメ対策事業（H29～R1） （明石・神戸アカミミガメ対策協議会）

ハッチョウトンボ、イシガメ、オニバスなどの野生生物に悪影響を与えるアカミミガメの調査及び防除や市民向けの啓発活動の実施等。



事例3 フキゲルカミ判の住み続ける草原の生息環境保全（H30～R2）（岡山県真庭市）

日本固有種で生息地が極めて限られる草原性の希少昆虫「フキゲルカミ判」の生息環境維持・改善（火入れ等）。

